

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)  
 TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com  
 代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円  
 年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円  
 法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円  
 振替口座00940-0-161341  
 「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう さがみはらさつしょうじけん ゆうせいしそう  
 特集：相模原殺傷事件-ストップ優生思想-2  
 リレーエッセイ：きょうき せいしんしょう  
 狂気と精神障がい者-4  
 しん きょうせい はぐく どりよく いしづか なおと  
 真の「共生」育む努力を-石塚直人-5  
 さがみはら さつしょうじけん う ふるしよう かずひで  
 相模原殺傷事件を受けて-古庄和秀 7

題字：  
 塩澤 文男  
 (しおざわ・ふみお)



ねこねこ王国

絵：うーちゃん (奏海の杜)

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

の底には、生産能力のない者を社会の敵と見なす冷め切った風潮がある。この事件はその底流がボコツと表面に現れたもの」と看破した。そう、犯人は「精神異常」でも「通り魔」でもない「正気」だ…この種の人間を「重度健常者」と定義・命名・呼称すべし。(ハギ)

それよりも「値する・しない」の基準は何で、誰がそれを判断するのかと問いたい(「幸・不幸」も然り)。障がいを持った我が子を殺した親や介護に疲れて身内を手にかけた者は必ず「情状酌量」の対象になるのが日本の常套で、「可哀想」が差別に繋がることを理解する人は少ない。故に、殺された障がい者の実名と人生は一切語られず「人数・年齢・性別」だけが発表される、それを良しとする社会なのだ▲最首悟は「いまの日本社会の底には、生産能力のない者を社会の敵と見なす冷め切った風潮がある。この事件はその底流がボコツと表面に現れたもの」と看破した。そう、犯人は「精神異常」でも「通り魔」でもない「正気」だ…この種の人間を「重度健常者」と定義・命名・呼称すべし。(ハギ)

相模原で19人を虐殺した犯人は、衆院議長に充てた手紙に「障害者は不幸を作ることしかできない」と書き、逮捕後「重度障害者が生きていくのは不幸。不幸を減らすためやっ」と語った。そして案の定、インターネット上では「よくやっ」た「障害者は生きていても誰の得にもならない」といった類の投稿が溢れている。犯人は、社会意識の深層にある人々の漠然とした思いを見事に代弁する▲生きるに値しない人間がこの世に存在するか？

# 社会的排除が生み出した障がい者大量殺人事件

ストップ  
優生思想

## 「生命は等しく重い」 ことをまもれる社会へ

ディーピーアイにほんかいぎ  
DPI日本会議 尾上浩二



尾上浩二さん

相模原障がい者殺傷事件の発生から1カ月あまりが経ちました。容疑者は調べに対し、今も、「障がい者は不幸しか作り出すことができない」などと差別的発言を繰り返している。報道されています。この事件は、大きな衝撃とともに、日本社会の実像を垣間見せるものでした。DPI日本会議副議長・尾上浩二さんにインタビューしました。

### 身もだえする ような恐怖

まず、事件の被害者の方々は、ご遺族の皆様が心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。私自身は、生まれた時から脳性まひの障がいがあり、子どもどもの時に入所施設にいました。腰の曲がりを矯正するためとして寝る時もベッドに体を固定された状態で寝かされていて、全く身動きできませんでした。そんな時に寝込みを襲われるように犯人が侵入し、刃物で切りつけられたら、逃げるところか、身動きもできません。

事件が報じられた時、被害に遭われた人の恐怖、理不尽さは他人ごとではなく、身もだえするような恐怖を感じました。何の因果関係もなく突然殺される不条理、施設という閉鎖的な空間で襲われる恐怖は、想像を絶するものがあります。次に、この事件を受け止める社会の側の問題として匿名報道の問題があります。マスコミは、通常の殺人事件なら被害者の卒業アルバムまで引っぱり出して報道しようとするのに、今回の事件の被害者は、保護者の希望があったとはいえず、「19名の障がい者」と一括りにされ、透明な存在になってしまいました。被害者は、一人ひとり違った個性をもち、それぞれの人生を歩んできた個人です。匿名報道は、その一人ひとりの足跡がかき消される気がして、割り切れないものを感じました。さらに、「被害者の方々は、

自ら望んで施設に入ったのか？」という問題もあります。今回の事件では、重度重複障がい者が狙われたわけですが、重度重複障がい者が地域で生きていく社会的条件は極めて未整備で、結局施設に入らざるを得なくなっています。地域から隠され、亡くなってからも透明な存在とされてしまったことで、彼(女)らが生きた痕跡が全く消されてしまっているのではないかと思います。事件の背後には、障がい者を棄民のよう扱ってきた政策や歴史が横たわっていると思います。

### 優生思想がまかりとおる日本

容疑者については、断片的な情報しかありませんが、容疑者は、警察に対し「障がい者なんていなくなればいい」「障がい者は不幸しか作り出さない」としたうえで、「社会・国家のために不幸を生み出す存在をなくす」と語ったそうです。今回の殺人事件は、むき出しの優生思想に基づく残虐行為としてま

### 「安全対策」への疑問

親にとって入所施設は、「最後の安全な場所」と言われってきました。しかし、一カ所に障がい者が集められる状況は、災害や事件などが一の場合に、逆に非常に危険であることも、大きな犠牲をとらざるを得ませんでした。ところが、事件の対策として語られている「施設の安全の確保」は、施設の壁をより高くし、外出を自粛したり、地域とそうした優生思想批判として、ナチス時代が引き合いに出されます。ドイツでは「T4作戦」などにより、20万人もの障がい者らが虐殺されました。このことは歴史的事実としてしっかりと押さえるべきです。ところが、日本社会では優生思想の間違いがしっかりと整理されていないのです。日本では「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」ことを目的に掲げた優生保護法が1996年まで続きました。障がい者や関係者の粘り強い運動で廃止されましたが、

「誰も取り残さない地域移行」こそが、根本的な対策です。厚労省が進める地域移行は、支援があまり必要ない軽度障がい者、地域移行できる人から順次進めるといっています。しかしこれを裏返すと、重度あるいは高齢の障がい者は、施設に残ってもしかたなしとの考えが見えてきます。「誰も取り残さない地域移行」を可能とするだけの地域基盤を飛躍的に整備することが求められます。だが、優生保護法下で行われた不妊手術などの被害者に対する謝罪や補償は、なされていません。日本社会は、優生思想について真正面から向き合っていない。現在に至っています。「重度障がい者や重介護が必要となった高齢者は、税金がかかるだけの存在だから、尊厳死してもらった方がいい」との政治家の発言もありました。現役の有力政治家が優生思想的言説を振りまいても、大きな問題にもならない。優生

# ブログ「関わり合いの場から」 http://yshibata58.blog.fc2.com/

## 相模原の事件をめぐって

障がいのある人たちが話されたことを、支援者の方が、  
ブログで紹介されています。

私たちの仲間が無残な殺され方をしたのですが、とても悲しいだけ  
ではなく、いろいろな問題をはらんでいます。世間の見方を改める  
必要があると思います。一人一人きちんとした考えを持っていること  
を前提にしないで、何もわからない人たちでも殺されるのは間違いだ  
としか語られていないからです。重要なのは亡くなった人たちにも  
しっかりした考えや感情があって、がんばって生きているというより  
も人生の価値を深いところで見通して生きていた人たちであることを  
理解したうえで、議論はなされるべきでしょう。8月8日(大野剛資)

私はこんなに悲しい気持ちになったことはありませんでした。な  
ぜなら、私たちの仲間がこんなにひどい殺され方をしただけでなく、  
存在の意味を否定されたからです。

私にとっては私たちの生きる意味は疑いようのないものなのに、世  
の中には私たちのことをやはり不要な存在だという人がいます。

だから悲しみが二重になって私達を襲っているのです。今回の  
事件は私たちの本当の姿が世の中に伝わってないことで起きた事件で  
す。一生懸命訴えてきたけれど、その声が小さかったばかりにかき消  
されてしまいました。

私達にとっては、どんなに障がいも重くてもみんなしっかりした  
気持ちを持っていることは疑いようのないことです。でも残念なが  
ら、専門家も含めてわかっていない人が多く、判断能力や大人として  
の感情があることを受け入れてもらえません。だからあの容疑者は私  
達を不必要な存在だと決めつけました。

確かに経済的なことだけを考えたらお金もかかります。私達には  
最下層を生きる存在ですから、私達を否定すると次の誰かも否定さ  
れる恐れがあります。すべての人を受け入れる世の中を理想の社会と  
いうのなら、まず私達を受け入れて下さい。 8月3日(女性)

ニュースを見てこのお二人だけでなく、知的障がいや重複障がいの  
ある当事者が、次々と意見や思いを込めた詩などを寄せられています。

ブログ執筆者・柴田保之さん：国学院大学人間開発学部教授。専門は  
障がいの重い子どもたちの教育や知的障がい者の社会教育活動。

「どんな障がいがあっても当  
たり前に地域で暮らしていける  
条件を作り出していく」—こ  
れこそが根本的な解決策です。

思想は、歴史的総括の問題とし  
ただけではなく、尊厳死や出生  
前診断による選択的中絶の議論  
として、現在までも続いている  
のです。

こうしてみると、容疑者の  
「障がい者」不幸・お荷物」  
という障がい者観は、実際の  
障がい者に接したことがなく、  
抽象的な存在として数字で表わ  
されるような理解のなかで作ら  
れます。その背景には、障がい  
者を社会から分け隔てる教育や  
社会があると思います。

存在」と記されており、とても  
貧弱な障がい者観を持っていた  
ことが分かります。容疑者が  
出会った障がい者は、集団で扱  
われる中で受身で消極的に生き  
ているように見える存在だった  
のではないのでしょうか。そうだ  
とすれば、「地域で生きる障がい  
者」像とは大きく違います。

私は、先日、重度重複障がい  
のある女性と一緒にイベントを  
させて頂く機会がありました。  
彼女は、地域の小・中・高校を  
卒業し、聴講生として関西大学  
にも通いました。コミュニケー  
ションは、音声言語ではなく、  
表情や目の動きで行います。も  
し容疑者が、彼女の生き方や姿  
と出会っていたら、彼の優生  
思想の背後にある貧弱な障がい  
者観とは違った像を形成できた  
のではないかと思っています。

厚労省は、今回の事件を受け  
ての対策検討会議を発足させま  
した。テーマは、①施設の安全  
対策の強化、②措置入院制度の  
見直しです。しかし、①安全  
対策の強化として、壁を高くし  
地域生活から隔離するような  
対策にならないか危惧していま  
す。今回のような強烈的な殺意を  
もった加害者に対しては、きわ  
めて高い拘禁性をもたせない限  
り防ぎようがなく、実際には  
不可能です。本質的な防犯対策  
とは、障がい者が地域のなかで  
生きる条件を整備することと、  
多くの人が障がい者と出会う  
優生思想的言説を許さないとい  
う社会を作りあげることです。

②に関しては、初動捜査の  
失敗という指摘があります。仮  
に「大学を爆破する」というメー  
ルを送れば、それだけで脅迫あ  
るいは威力業務妨害で逮捕され  
ます。今回の容疑者は、施設名  
を特定し殺人予告をしていたの  
ですから、警察が対応できたは  
ずです。マスコミは、当初か  
ら「精神障がい者が知的障がい  
者を襲った特異な事件」とい  
う構図で報道を展開し、厚労省  
は、その構図に乗って対策を立  
てようとしています。施設の壁  
を高くし、精神障がい者を隔離  
するという「対策」は、犯人が  
求めている「障がい者がいない  
社会」の実現に向かいます。こ  
うした意味で、私たちDPI  
日本会議は、措置入院制度の  
見直しには反対しています。

### インクルーシブ 教育へ

### 地域で生きる 条件整備を